

緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 平成 27年 6月 12日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

実施団体	
主催：杉並オレンジバルーンフェスタ協議会 共催：杉並区医師会、杉並区 後援：杉並区歯科医師会・杉並区薬剤師会・杉並区緩和ケア研究会・ 杉並区訪問看護ステーション連絡会・杉並区居宅介護支援事業者協議会	
企画名	
オレンジバルーンフェスタ 2015.1.24 IN SUGINAMI 在宅医療推進フォーラム	
事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)	
A2版ポスター1200枚・A4版ちらし8000枚を作成し区・介護・医療機関等で掲示・配布。杉並区医師会ホームページ・杉並区ホームページ・杉並区報への掲載。J:COM情報番組での放送(事前1回、事後1回)。イベント前日にはちらし10000枚を追加印刷し会場近隣地域へ新聞折込で配布。	
当日の実施内容について	
日時(期間)	平成27年1月24日(土)12時～16時
実施場所	座・高円寺2(杉並区高円寺北2-1-2)
参加人数	一般参加者236人、講師10人、スタッフ70人
具体的な実施内容：	
＜目的・内容＞	
目的：1)杉並区民に対する緩和ケア・在宅ケアについての普及・啓発 2)イベントの企画・実施を通して区内で緩和ケア及び在宅ケアに係る関係者の連携を促進し、顔の見える関係を構築する。	
内容：	
1. 名称：『オレンジバルーンフェスタ 2015.1.24 IN SUGINAMI 在宅医療推進フォーラム』	
2. テーマ：ある日突然大切な人が「がん」になったら、あなたならどうする？	
3. 会期：平成27年1月24日(土)12時～16時	
4. 会場：座・高円寺2(杉並区高円寺北2-1-2)	
座・高円寺2は客席数256の区民ホールである。ホールを第1会場として、第1部・第2部はミニ講演・シンポジウム形式でがん医療や緩和ケア・在宅医療について啓発を行い、第3部で精神的苦痛をやわらげリフレッシュするためのミニコンサートを開催した。また、ホール周囲等の空間を第2会場として利用し、情報提供・相談、体験、展示コーナーを主としてブース形式で展開した。	
第1部 がんと診断されたらあなたならどうする 講師6人(医師、看護師、臨床心理士、薬剤師、社会	

福祉士、歯科医師)

サブテーマ：#二人に一人って本当？

#がん看護専門看護師とは？

#「がん」と宣告されるとどんな心境になるの？

#治療について

#抗がん剤について

#お口の中の副作用&口腔ケアについて

#がん治療ってどのくらいお金がかかるの？

第2部 緩和ケアってなあに？ 講師5人（医師、看護師、介護支援専門員、薬剤師）

サブテーマ：#緩和ケアについて

#ホスピス紹介

#介護保険について

#医療用麻薬の話

#がん難民にならないために

休憩 心と体をほぐすストレッチ（理学療法士）

第3部 癒しのライブコンサート（カズン）

展示・ブース：在宅ケア用品、栄養食品、介護用品体験、がん予防・ピンクリボン、かつら体験、口腔ケア、情報提供（医師会・歯科医師会・薬剤師会・訪問看護ステーション）、アロマ体験、写真・絵画展示の各コーナー。

<実施方法>

今回の企画は杉並区医師会、杉並区共催で実施した。杉並区医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション連絡会、居宅介護支援事業者協議会、杉並緩和ケア研究会、杉並区、等の19名で実行委員会を構成し（任意団体「杉並オレンジバルーンフェスタ協議会」）を設立し主催者とした）、杉並区医師会館で事前に6回の企画運営会議を行った。

区民への周知活動として以下の事を行なった。A2版ポスター1200枚・A4版ちらし8000枚を作成し区・介護・医療機関等関係機関で掲示・配布。杉並区医師会ホームページ・杉並区ホームページ・杉並区報への掲載。J:COM情報番組での放送（事前1回、事後1回）。イベント前日にはちらし10000枚を追加印刷し会場近隣地域へ新聞折込で配布した。

当日、第2会場ではスタンプラリーを実施し、来場者にはアンケート調査用紙への記入をお願いした。また当日スタッフは全員、オレンジ色のポロシャツを着用した。

効果について（アンケートの結果など）

<実施結果>

当日の参加者数は以下の通りである。一般参加者236人、講師10人（スタッフ兼任者を除く）、スタッフ70人（医師会12人、歯科医師会6人、薬剤師会7人、杉並緩和ケア研究会4人、河北総合病院6人、杉並区居宅介護支援事業者協議会11人、訪問看護ステーション連絡会11人、杉並区14人、その他1人）、協賛企業13人。講師・スタッフは全員杉並区内で活動している人である。

アンケート調査用紙の回収数は151件（回収率64.0%）、男43・女84、杉並区内77・区外31、年齢30代以下13、40代23、50代35、60代31、70台30、80代16だった。またイベントを知った理由は、杉並区広報50、ポスター・チラシ30、杉並区ホームページ2、家族に聞いて9、知人に聞いて24、通りかかって12、医師から11、歯科医師から1、その他5だった。来場してみようと思った理由は、がん治療中15、身近な人ががん治療中40、テーマに関わっている23、いずれ自分も関わりそう57、知人が関わっている12、家族をがんで亡くした2、その他5だった。アンケートには自由記載の部分があり、緩和ケアについて初めて意識した、在宅での療養の可能と思った、正しい知識があれば怖いと思う気持ちも軽減されると感じた、など全体的には肯定的な感想が多い一方、展示ブースが狭かった等の、技術的な批判も聞かれた。

その他報告

<評価・反省>

今回の企画はJR高円寺駅徒歩5分に位置する劇場型施設で行った。このため通りがかりに立ち寄る人数は余り期待出来ず、参加者には積極的な意思で来場していただく必要があった。結果、一般参加者は236人に上った。これは「がん」のケアに対する区民の関心が極めて高いことを示していると考えられる。アンケートでも「もっと早く情報を知りたかった」「このような機会を多く設け、緩和ケアや癌の治療について普及活動を続けてほしい」という意見が多く寄せられた。またアンケートの結果から一般参加者の年齢は50代をピークとする山型だったことが推定される。50代は自身が罹患する可能性が高まる他、両親が罹患している人もあり、非常に関心が高かったものと思われる。またブース参加企業からは、今回はこれまで他で行ってきたイベントに比べて来場者が積極的だったため、短時間にもかかわらず啓発効果が高かったとの意見があった。

イベント終了後の2月19日に実行委員一同で反省会を行なった。「ホールでの構成が今までにない対話形式だったので区民には分かりやすかったと思う」「在宅医療推進フォーラムとしての部分もあったので、在宅でのがんの療養についてももう少し情報提供できたら良かった」「場内で訪問看護ステーションの看護師が歯科医師会から口腔ケアについて説明をしていただいた。各専門職が集まるので関係機関同士が顔を合わせ、相談できるのが良かった」等の意見があった。

杉並区には10年にわたる活動実績を持つ杉並緩和ケア研究会と、東京都内最多の4ヶ所のホスピスがあり、緩和ケアについて啓発活動を行ないやすい環境にある。しかし医師会や杉並区等を含め、全ての人的資源が一同に会する機会はこれまでに無く、その点今回のイベントは「関係者の連携を促進し、顔の見える関係を構築する」という目的に大きく貢献できたと考えられる。また、区民のがん医療・緩和ケアに対する関心が極めて高く、今後も同様の企画を望む声が多い、ということが分かったことも成果の一つであった。